

連載：原点

思考力を育てる

木更津高等学校 長岡 知哉

私はもともと算数が得意な方ではありませんでした。中学生になり、数学が得意な友人が周りに多く、それが悔しくて何時間も数学を勉強していました。当時の数学の先生に細かいところまで丁寧に教えていただいたこともあり、数学が一番得意な科目になっていました。高校生になった頃には、友人に教える機会も増え、わかったと言ってもらえたときにはとても嬉しく感じました。そして、もっとわかりやすく教えたいと思い、より数学の勉強をするようになりました。「自分の得意な部分で誰かの役に立ちたい」と思うようになったのが教師を志したきっかけです。

6月から授業が始まり、2ヶ月が経ちました。講師としての経験があるので、「ある程度はできるかな」と思っていました。しかし、振り返るとまだまだ勉強不足だと感じることはありません。記述の答案を書くのが苦手な生徒が多いと思っていましたが、それは、授業で答案の書き方の指導が疎かになっていたからであると気付きました。生徒は授業に真面目にしっかりと取り組んでくれています。そのような生徒の期待に応えるためにも、板書を改善し、よりよい授業づくりを学んでいきたいです。

そんな私が普段授業を行っていくうえで気を付けていることは、「話の流れ」です。解き方をいくら上手に説明したとしても、なぜそのような考えに至ったかが無ければ、ただ解き方を覚えるだけになってしまい、問題を解決する力は身につかないと思います。そこで、一つの問題を解き始める前に、必ず「これを解くには何が分かればよいのか」を確認するようにしています。私自身そのようにして数学の力を身に付けてきたこともあり、そのような思考の繰り返しが大切であると、伝えていきたいです。

これからの社会は急速に変化していき、それに対応できる能力が必要になる、ということがよく言われていますが、この新型コロナウイルスにおける社会の動きはまさにそれを象徴しているように思えます。今置かれている状況を理解し、自分がどのように行動するのかを考える力を養っていかねばいけません。思考力を身に付けさせるためにも、これからも授業力を磨いていき、普段から考えることを重視した授業を展開していきたいです。